



バリアフリー
ペーパー
4月号
平成 23年4月26日発行
偶数月発行

この機関紙は、西条市障害者相談支援センターがパソコン就労をめざす障害当事者グループ「オンリーワン」に編集を委託し、協同で作成したものです。

今年の冬は長かったように感じました。しかし、1週間遅れとなりましたが、桜は見事に花を咲かせ私達の心を癒してくれました。1日1日春の訪れを待った分だけ、よけいに美しく感じましたように思います。

4月11日で震災から1ヶ月が経ちましたが、復興が難航している様子に、被害があまりに大きかった事を改めて認識しました。しかし、どんな寒い冬でも必ず春が来るように、被災された方々にも希望の光が見えますようにと願います。社協でも、災害たすけあい募金の窓口を設けみなさまのご協力を頂いています。引き続きよろしくお願ひします。（支援センター青野）

パソコン講座の参加者を募集します。

障害のある方を対象にパソコン講座を開催します。今年度は、20回かけてじっくり学んでもらう講座としました。興味のある方は、一緒に勉強してみませんか。

* 日 程：平成 23年 6月～12月の金曜日（全20回）

6月	3日	24日		
7月	1日	8日	15日	22日
8月	5日	26日		
9月	2日	9日	16日	30日
10月	7日	21日	28日	
11月	11日	18日	25日	
12月	2日	9日		

- * 時 間：13時30分～15時30分
- * 内 容：ワードの基本操作・カレンダー・名刺づくりなど
- * 費 用：無料。テキスト代として1000円程度の負担が必要です。
- * 対 象 者：障害のある方で、パソコンを学びたい方 10名程度
- * 場 所：西条市中央公民館1階 情報通信室（西条市周布404-1）
- * 講 師：障害当事者グループ オンリーワン

支援センターまでお申し込みください ♪



当事者の奮闘記 未来への足跡(あしあと)



黒豆コーヒーが人気の「さくらんぼハウスカフェ」に行ってきました!



今回は、西条市総合福祉センター2階にある、地域活動支援センターの「さくらんぼハウス」さん取材して来ました。主に精神障害者の方が利用されており、登録は50名以上で、1日の平均利用者数は12~13名とのことでした。現在の作業内容は、班分けされていて「喫茶班」「スイーツ班」「カレー班」「畑班」で活動しています。取材日には、「喫茶班」のメンバーがそろっていたので、お話を聞きました。

喫茶と言う文字通り、メニューを見せてもらうと喫茶店のものと同じような内容でした。お客さんは、福祉センターを利用している人がメインで、施設や団体の職員さんは元より、トレーニング室やお風呂・プールを利用している高齢者の方も、来てくれるとのこと。会議室へのデリバリーもやっていて、多い時には30杯のコーヒーの注文があるそうです。デリバリーでこだわっているのは、紙コップは使わず陶器のカップで出しているということ。このことは、お客さんから喜ばれているそうです。



通路にある看板



取材風景喫茶班のメンバー



黒豆コーヒーの黒豆の割合

飲み物の売れ行き順は、1位「黒豆コーヒー」2位「ホットゆず茶」3位「抹茶ミルク」となっていて、軽食に「カレー」と「ホットサンド」が用意されています。このカレーを作っているのは、男性とのこと。僕は食べたことがあるのですが、すごくおいしかったです。「男のカレー」とは思えませんでした。ホットサンドは、パンにして1斤~2斤分、1日におよそ10人前を用意しているそうです。



入口の看板



ホットゆず茶作ってます♪



男のカレー

喫茶班のお給料は、時給制を採用しています。現在1時間150円。アクアホールでの「1日喫茶」やイベントなどで売り上げが伸びると、多い人では月に1万円を超える場合もあるそうです。星加施設長によると、作業所全体に占める若い新人さんの割合が多いとのこと。取材していても、メンバーさんの笑顔や生き生きとした動きが印象に残りました。



本格的なカップウォーマー



抹茶ミルク



ミックスジュース準備



休日にさくらんぼハウスに立ち寄った藤田さん。

さて、喫茶班を卒業し、現在、新居浜市の就労継続支援A型施設「スマイルラボ」で働いている藤田貴大（たかひろ）さん（29歳）にもお話を伺いました。

藤田さんは、去年の3月からハローワークの紹介で「さくらんぼハウス」を利用し始め、その後「スマイルラボ」を紹介され、働かれています。仕事内容は、しいたけの生産に関わるお仕事。自宅まで送迎をしてくれるそうです。

藤田さんには、知的障害があり「さくらんぼハウス」に通い始めるまでは、自宅に引きこもった生活をしていたそうです。仕事と言う意味では、今の仕事が生まれて初めての仕事だそうです。希望や夢を聞くと、「僕みたいな、引きこもりの人が一人でも多く、外に出て生活出来るようになればいいと思う。」と力強く答えてくれたのが印象的でした。

この機関紙の取材を通して、いろいろな施設を訪問すると、その施設の持つ「カラー」が存在していて、ちゃんと機能していることを嬉しく思います。将来は、障害の区分などの垣根がなくなり、障害を持つ人が自分に合った施設を選んで通える時代がくるといいなと思いました。（大岩）

（イラスト しんすけ）





のぶちゃん・おーちゃんのべすとしょっと



「黄色い川 (*^_^*)」

ここは、砥部町八倉の矢取川です。川全面に菜の花が見事に咲き誇っていました。県道の橋からの撮影です。僕にとってこの橋は時速50kmで通過する場所で、自分ではこんな風景だとはまったく気付きませんでした。知人から教えてもらって、少し離れた所に車を置いて、歩いて撮影に向かいました。去年、大水がなかった証拠の風景だとか。なんだか得した気分になりました。(^^)

撮影：おーちゃん



「ライトアップ」

今治市朝倉にある無量寺の枝垂れ桜のライトアップを撮影して来ました。撮影は4月5日の午後8時頃です。土曜・日曜は、カメラマンが多すぎてまともに写真が撮れないほどの人気スポットです。樹齢はおよそ100年で、高さは10メートルあります。その昔、京都のお寺で修行していたお坊さんが、愛媛に持ち帰った桜と言われています。現在は、朝倉の巨木にも指定されています。撮影：のぶちゃん

編集後記

「東日本大震災の被災地に思う・・・」

3月11日、自宅にてゆったりとTVを見ていたら急に画面が地震情報に変わりました。これはただ事ではないと思う間なしにマグニチュード9規模の大地震が東北地方や関東地方を襲ったとのニュースが流れ、そのままもうTVの前に何時間も釘付け状態でした。津波に襲われ流される家、車、船、そして悲痛な人々の叫び声。まさか？これが津波の恐ろしさかと、この世の地獄とさえ感じました。明日はわが身と置き換えて、この大震災を教訓に防災の見直しが行われている昨今です。今の私達に出来る事は微々たる事かも知れませんがそれでも、日本人の一人としていつも助け合う気持ちとモラルだけは持ち続けたいと思います。「人は一人では生きていけない。」人と人との繋がりで生かされていると思うのです。かつての私が、辛い闘病生活から今の充実した明るい日々を送れるようになったのも、周りの人の温かい支えがあったからだと思えるからです。(梅野)



発行：西条市障害者相談支援センター（西条市社会福祉協議会）

編集：オンリーワン編集委員

〒799-1371 西条市周布 606 番地 1 西条市東予総合福祉センター内

TEL：0898-64-2600 (代) FAX：0898-64-3920 E-mail：soudan-saijo@galaxy.ocn.ne.jp